

共生社会実現へ課題学ぶ

高知市でフェスタ 千原ジュニアさん対談も

人々が世代や分野を超えてつながり、互いに支え合う社会の実現を目指そうと呼び掛ける「高知地域共生社会フェスタ」が7日、高知市で開かれ、約10人がひきこもりなどの地域課題について学んだ。

追手前高校で開かれたフォーラムでは、ひきこもり経験があるお笑いタレントの千原ジュニアさんと、浜田省司知事が対談した。

ジュニアさんは学校に居場所がないと感じてひきこもったことや兄、せいじさんの電話をきっかけに前に踏み出せたことを告白。「ひきこもっていた期間は無駄ではなく、大きな一歩を進

む準備をする時間になった。家族や周囲の人は焦らず見守って」と語った。

その後、高知県立大学永国寺キャンパスで分科会を開催。ヤングケアラー（大人に代わって日常的に家族の世話や介護を行う子ども）▽農福連携▽ひきこもりの3テーマで、それぞれ当事者の報告やパネル討議などが行われた。

ヤングケアラーの会では、一般社団法人「ヤングケアラー協会（東京）の宮崎成悟代表理事（34）が登壇。難病となった母を17年間世話した経験を基に、「18歳を過ぎても問題は終わらない。家族のケアを社会で支える手段を考えよう」と訴え、「周囲のちよつとした一言で心が救われる時がある。気にかけて続け、定期的

（相良平蔵）

に声を掛けてほしい」と呼び掛けた。

同大学2年の森岡ふみさん（20）は「そばにいる人への思いやりを連鎖させることが地域共生につながる」と話していた。